



学校だより

くまいち通信

熊野町立熊野第一小学校
平成30年9月3日
校長 栗原 築波

5年生『野外活動（1泊2日）』を終えて

8月7日（火）から8月8日（水）まで、5年生児童は、国立江田島青少年交流の家を舞台に、1泊2日の野外宿泊体験活動を実施しました。

今回は、7月初めの土砂災害で交流の家が断水、また交流の家までの道路の安全確保ができないという事態となり、野外活動の実施が危ぶまれたため、日程を後半のみにして実施できる可能性を広げて待っていました。そして8月に入り交流の家の断水が解除され、交通の安全が確保されたため実施することができました。

今回のテーマは、一人一人が考えながら動き、協力した動きを作る「協想力」でした。そのために、次のポイントを大切にしていきました。

◆5分前には会場に集合できるように、しおりを見て10分前行動をすること

◆自分の当番のことだけでなく、人のためになることは積極的にやっていくこと

初日の前半はどうすればいいのかと戸惑う子供達がたくさんいましたが、時間がたつにつれ子供達が黙って動くようになり、また、素早く整列したり、迷っている友達への優しい声かけをしたりと「集団で動く」ことを意識した行動がたくさん見られました。

期間は短かったのですが、この体験を通して集団生活する大切なツールを学ぶことができたと思います。

今回は日程を変更するなど、保護者の方にはいろいろとご心配をおかけしました。皆様のご協力により充実した体験活動を実施できたことに感謝します。

入所式



カヌー教室



陶芸教室



海辺の生物観察



キャンプファイヤー



大規模土砂災害による心の被害を、お子さんは受けていませんか？

この度の土砂災害で、多くの方が恐ろしい体験や悲しい思いをされ、強いストレスを受けています。また直接被害をされていなくても、テレビで被災地の映像を繰り返し見たり、人の話を聞いたりすることで、子供たちもその小さな心や体に影響を受けているようです。

1 こんな症状はありませんか。

- 雨や水の音を怖がる。
- 土のにおいを嫌がる。
- 音を嫌がる。
- なかなか寝付けない。
- 夜泣きをする。
- 口数が少なくなる。
- 一緒に寝たがる。
- 土砂災害を再現する遊びをする。
- などなど

2 回復のためのポイント

- 食事、睡眠、運動などの生活リズムを崩さない。
 - 話をよく聞いてあげる、ゆっくり聞いてあげる。
 - 甘えがひどくなったらしっかり甘えさせる。
- 《使わないでほしい言葉》
「早く忘れよう」「強くなろう」「しっかりしよう」

3 スクールカウンセラーに相談できます

熊野町にはスクールカウンセラーが配置されています。お子さんの心のケアについてご相談されたい方は学校へ連絡ください。